

フィリピン滞在記 ④---マニラのチャイナタウンで旧正月を体験

為我井輝忠

マニラに大きなチャイナタウンがあることは前回紹介したが、図らずも旧正月をチャイナタウンで過ごし、大変興味深い体験をすることが出来た。

今年の中国の旧正月(春節)は2月19日で、18日が大晦日にあたった。中国系の人々が多く住むチャイナタウンでは18日の真夜中12時を境にカウントダウンの大きな叫びがあちこちで聞かれ、同時に賑やかな花火が何十発と打ち上げられ、爆竹の激しい音も聞かれた。

そんな光景を見ていると、数年前北京で過ごした春節のことが思い出される。大みそかの晩、

北京ではマイナス2~3度という気温の屋外で、寒さに震えながら花火や爆竹の鳴る音を聞いて、本場の旧正月を過ごした。翌日の元旦には地壇公園での「春節文化廟会」という野外イベントに出掛け、伝統的な北京の正月を味わうことが出来た。

しかし、マニラでの旧正月は気温が日中は30度位まで上がり、あの寒さで震えながら体験した北京での正月がまるで別世界のような気がする。陽気な中国系の人々やフィリピン人たちの姿を見ていると、これが南国の旧正月かと実感した。

当地では、何よりも面白いと感じたのは春節パレードである。チャイナタウンは狭い地域なので、どこかでパレードが行われていても楽隊の鳴らす賑やかな音楽でどのあたりで行われているのかすぐわかり、その方向へ歩いていくとパレードに出会うことが出来た。恐らく世界のどのチャイナタウンでも共通しているのは、獅子舞と蛇踊りではないだろうか。

オンピン通りを2頭の獅子(赤と黄色い色をした)が爆竹の鳴る中を縦横に通りを動き回り、時には立ち上がったたり、アクロバティックな仕草をしたりしている。獅子には北方系と南方系がある



チャイナタウンの入り口に建つ牌楼



旧正月でおなじみの2頭の獅子



ゲイパレードで見物者と一緒に写真を撮るゲイの人たち



パレードで口から火を噴いて人々を驚かせている男性



全身を黒く塗った男性が道行く人に寄付を求めている

が、これらの獅子は南方系なのだろうか。一方、15人ほどの若者による蛇踊りも見事だ。一糸乱れぬそれでいて目まぐるしく動く様は日ごろの訓練の賜物だろうか。このいずれも横浜、香港、シンガポールで見たことがあるが、どれもほとんど変わらない。

パレードで興味深く見たもうひとつの光景は女装した男性たちの集団であった。ゲイパレードと言つてもよいのだろうか。彼らは踊りを舞いながら通りを練り歩き、広い空間があるところに来ると、そのうちの一人が激しく動きながら口の中から火を噴きだすパフォーマンスをした。その様はまるで手品師を見ているようだった。また、何人かの人々が赤い小さな袋を見学者に手渡していて、最初それが何だか分からなかったが、よく見

ていると、それは寄付を募るものであった。彼らのような存在は他のアジアの国ではタイ以外に見られないと思うが、フィリピンではよく見かける。

もう一つチャイナタウンでの楽しみは食である。街を歩いていると、本場中国では目にすることが出来ないようなフィリピン流中華料理を味わうことが出来る。例えば、ルンピア(春巻き)、パンシット(スパイシー麺)、インドネシア風揚げ出し豆腐などがあり、また中国本場に引けを取らない水餃子や揚げ餃子もあり、大いに堪能したことは言うまでもない。

これからもマニラに来たならば、何度でもチャイナタウンを訪れてみたい。さらに、もっと街を歩き、食の探訪も大いに果たしたいと考えている。